

2

第2章 将来都市像

1. まちづくりの基本理念及び将来像
2. まちづくりの方向性
3. 都市計画の目標
4. 将来人口フレーム
5. 将来都市構造

第2章 将来都市像

本市の都市計画マスタープランは、第2次那須塩原市総合計画後期基本計画で示されているまちづくりの基本理念及び将来像を踏襲し、それを都市計画の面から実現するものです。

1 まちづくりの基本理念及び将来像

まちづくりの基本理念

自然を守り、共生するまちづくり

わたしたちのまちには、雄大な山々、清らかな河川、^{ふうこうめいび}風光明媚な溪谷などの美しく豊かな自然があります。

わたしたちの財産であるこの自然を次世代に引き継ぐため、自然を守り、共生するまちづくりを進めていきます。

歴史に学び、開拓精神が息づくまちづくり

那須野が原の荒涼たる原野を開拓することは、大変な苦勞が伴いました。先人たちは、過酷な自然環境と闘いながら、農地の開発や那須疏水の開削を行い、今日の那須野が原を作り上げました。

こうした忍耐強さや新たなものごとに取り組む不屈の開拓精神を受け継ぎ、まちづくりを進めていきます。

人を中心に、共に支え合うまちづくり

この地に暮らしてきた人々が、共に手を取り支え合ってまちをつくってきたように、市民を中心に、共に支え合い安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

【将来像】

人がつながり新しい力が湧きあがるまち 那須塩原

2

まちづくりの方向性

第2次那須塩原市総合計画で示されている8つの基本政策及び近年の社会経済状況を踏まえ、都市計画を検討し、まちづくりに展開していきます。

(1) 第2次那須塩原市総合計画で示されている8つの基本政策を踏まえた点

①豊かな自然と共に生きるために

本市の美しい景観を次世代に引き継ぐため、環境保全を推進します。また、脱炭素社会の実現のため、自然環境や地域に調和した再生可能エネルギーの利用を推進します。

②まちの安全安心を守るために

災害の発生に備えた強靱な地域づくりの取組を図り、安全安心なまちづくりを推進します。また、那須塩原市立地適正化計画における防災指針に基づき、居住誘導区域・都市機能誘導区域の防災・減災対策を推進します。

③誰もが生き生きと暮らすために

若い世代から高齢者まで、誰もが健康で生き生きと過ごすことのできるよう、日常生活に必要な都市機能の確保や公共交通の利用環境の向上を図ります。

④快適で便利な生活を支えるために

計画的・効率的な道路やライフライン等の整備・維持、地域の実情に即した公共交通体系の構築、地域特性を生かした憩いの空間の提供などにより、集約型都市構造への変換を図るとともに快適で便利なまちづくりを推進します。

⑤地域の力と交流を生み出すために

市街地の規模や役割に応じた都市機能の集積や居住誘導を促進し、誰もが暮らしやすくコンパクトなまちづくりを推進します。また、市民との交流を深め、協働によるまちづくりを推進します。

⑥まちの活力を高めるために

製造業や物流等を中心とした産業集積、持続可能な観光地域づくり、農産品の生産や6次産業化などの取組により、活力・魅力にあふれた産業振興を図ります。また、地域と調和を図りながら本市の強みである酪農を主軸とした地域活性化を図ります。

⑦未来を拓く心と体を育むために

子育てや教育環境の充実、働き方やライフスタイルの変化など、多様な居住形態や住民ニーズに対応したまちづくりを推進します。また、生涯学習・生涯スポーツの場となる図書館や公民館、スポーツ施設等の活用を図ります。

⑧まちの持続的発展のために

「2050 Sustainable Vision（サステナブルビジョン）那須塩原～環境戦略実行宣言～」の取組を図り、持続可能で人にも環境にもやさしいまちづくりを推進します。また、市民のまちへの興味・愛着を高めるため、まちの持つ魅力の共有化や情報発信を推進します。

（2）近年の社会経済状況を踏まえた点

①効率的・効果的な行政運営のために

昨今の厳しい財政状況や事業費の増加等に鑑み、公共公益施設等の更新・統廃合・施設の複合化・長寿命化計画等の対応策を検討し、効率的・効果的なまちづくりを推進します。

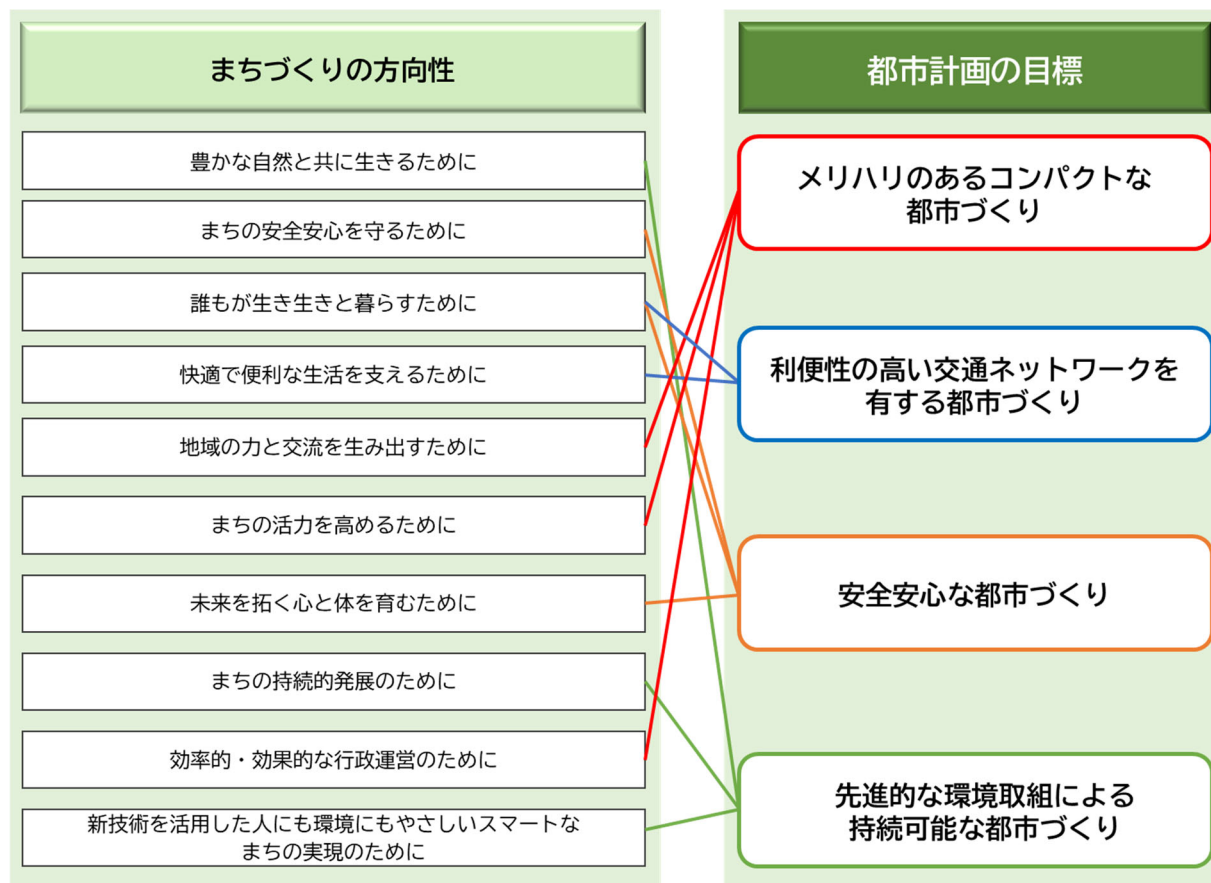
②新技術を活用した人にも環境にもやさしいスマートなまちの実現のために

未利用・再生可能エネルギーの有効活用や省エネ技術・情報通信技術の導入など、様々なまちづくりの分野において、新技術を活用して、生活サービスの向上や都市経営の効率化が図られたスマートシティの実現を目指します。

3

都市計画の目標

「まちづくりの基本理念及び将来像」や「まちづくりの方向性」を踏まえて、「都市計画の目標」を次のとおり示します。



メリハリのあるコンパクトな都市づくり

JR 那須塩原駅、JR 黒磯駅、JR 西那須野駅周辺の都市機能の活用と強化により拠点性を高めるとともに、その周辺のまちなかへの居住（集住）の誘導を促進し、誰もが暮らしやすくコンパクトな都市づくりを進めます。

交通の利便性が高いインターチェンジ周辺や広域交通を担う道路沿線は、周辺の自然環境との調和を図りながら、その特性を生かした土地利用を進めます。

市街地外の農地・集落地は気候変動にも適応しながら営農環境を保全しつつ、集落地の生活環境の維持向上を図ります。

本市北西部の山岳地帯は、広大な森林を有し、炭素の吸収や固定をしている重要な資源であるため、豊かな自然環境の維持保全を図ります。塩原や板室などの温泉地は、自然環境と調和した観光地としての維持向上を図ります。

利便性の高い交通ネットワークを有する都市づくり

計画的な道路網の整備を進めるとともに、公共交通の利便性の維持向上を図り、総合的な交通体系を構築し、誰もが安全でスムーズに移動できるネットワーク型の都市づくりを進めます。

安全安心な都市づくり

安全で安心して暮らすことができるよう、各種災害による被害が想定される地区での土地利用の抑制、那須塩原市地域防災計画に基づく地域災害に対する予防や発生時における応急対策（防災・減災）、自家消費型の再生可能エネルギーによるレジリエンスの強化、更には速やかな復旧・復興などを可能とする災害に強い都市づくりを進めます。

都市基盤（道路、河川、ライフライン等）の強化、都市施設の耐震化を図るなど、安全安心な都市づくりを進めます。

先進的な環境取組による持続可能な都市づくり

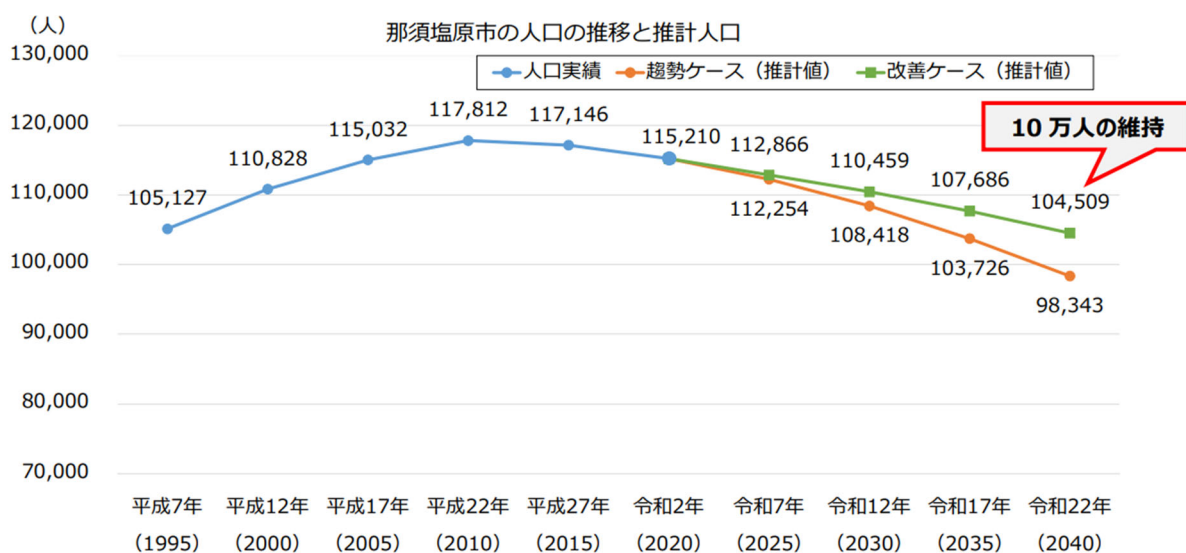
市の豊かな自然環境は、市民生活を豊かにし、かつ、酪農や農業、観光をはじめとした産業活動を支える貴重な資源であることから、生物多様性の損失を食い止め回復に向かわせるネイチャーポジティブ、脱炭素社会を実現するカーボンニュートラル、資源や経済の地域内での循環を図るサーキュラーエコノミーという3つの取組を相互に連携させ同時実現を図ることにより持続可能な都市づくりを進めます。

4 将来人口フレーム

第2次那須塩原市総合計画後期基本計画の人口の将来展望において、本市の総人口は、将来推計（趨勢ケース）では令和22(2040)年に10万人を下回る見込みとなっていますが、総合計画に掲げる政策・施策を推進し、将来の合計特殊出生率や若者を中心とした社会増減の状況の改善を図ることにより、令和22(2040)年に10万人を目指すとしています。

本計画では、令和22(2040)年に10万人を維持するため、人口減少社会に応じた集約型都市構造の実現を目指します。

那須塩原市の人口の推移と将来推計



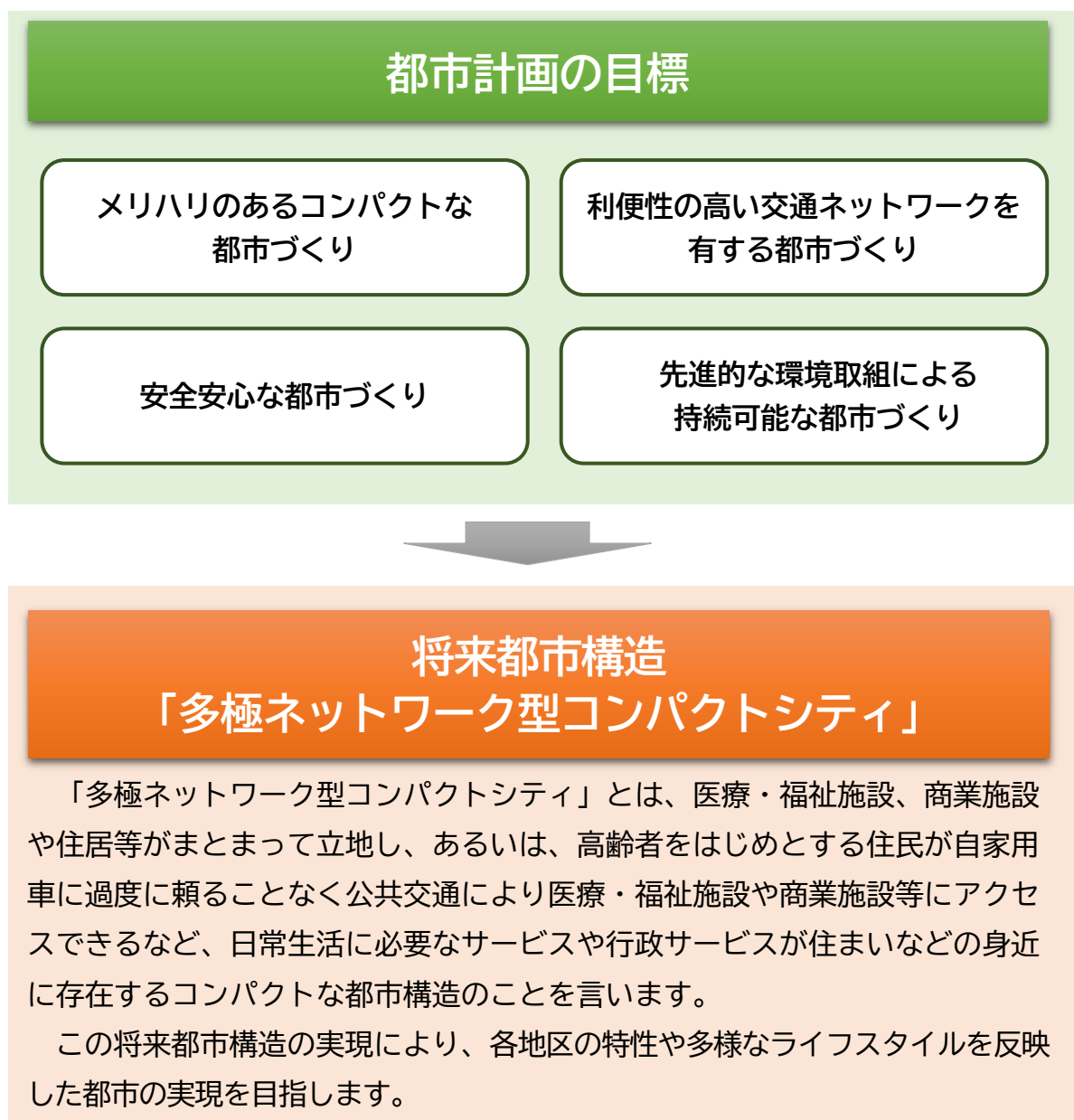
【出典】第2次那須塩原市総合計画後期基本計画

5

将来都市構造

将来都市構造は、まちづくりの理念や目標などを踏まえ、都市全体に関わる土地利用を示す「土地利用のエリア」、都市活動を支える各機能が集積した「拠点」、都市活動や市民生活を支え、拠点を結ぶ都市の主要なネットワークとしての「連携軸」等により、将来あるべき都市の構造について示したものです。

本市の将来都市構造として、鉄道を軸として3つの市街地にある駅を拠点とした「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を進め、将来的にも持続可能な都市を目指します。



(1) 土地利用のエリア

土地利用の現況や地理的条件、産業構造などの特性から土地利用を4つに分け配置する「エリア」について次のように構成します。

■市街地エリア

JR 那須塩原駅、JR 黒磯駅、JR 西那須野駅を中心とした用途地域とその周辺地域を「市街地エリア」と位置付け、良好でコンパクトな市街地の形成と都市機能の誘導を推進します。

■農業・集落エリア

那須野が原ならではの景観や営農環境の保全、集落環境の整備を推進する地域を「農業・集落エリア」として位置付け、農業生産基盤と集落生活環境及び里地里山機能の維持向上を図ります。

■山間・観光エリア

本市北西部の山岳地帯を、「山間・観光エリア」として位置付け、豊かな自然環境の保全と生物多様性の維持回復に努めます。また、温泉観光地では、自然環境と調和し地域資源を活用した観光拠点づくりを推進します。

■フロンティアエリア

西那須野塩原インターチェンジ及び黒磯板室インターチェンジを中心とする地域を「フロンティアエリア」と位置付け、自然と共生した産業の発展に向け、インターチェンジ周辺の立地特性を最大限生かしながら良好な環境の保全創出（生物多様性増進活動、資源循環社会の構築、脱炭素）に取り組む企業等の誘致を推進し、現状の自然環境のポテンシャルを保全・活用するかたちで工業生産、物流機能などの都市機能の誘導を図ります。

(2) 拠点

多くの人が集まり、都市活動の場として、都市機能を集約し配置する「拠点」について、次のように構成します。

■広域拠点

JR 那須塩原駅周辺地域を「広域拠点」として位置付け、商業や医療、公共公益施設などの都市機能や人口の集積を一層促進し、周辺都市と共有して利活用できるよう、公共交通を基本とした交通ネットワークの充実・強化を図ります。

■地域拠点

JR 黒磯駅周辺地域、JR 西那須野駅周辺地域を「地域拠点」として位置付け、徒歩や自転車で移動可能な範囲に日常生活機能と居住機能を集積させ、人口密度を維持していくとともに、必要な都市機能の維持・充実や、日常生活の利便性の向上を図ります。

■生活拠点

関谷地区の住宅系の用途地域が指定されている地域を「生活拠点」として位置付け、日常生活に必要な店舗や診療所などの生活利便施設の確保や、公共交通の充実などにより生活の利便性の向上を図ります。

■産業・流通拠点

工業系の用途地域が指定されている地域を「産業・流通拠点」として位置付け、周辺環境に配慮しながら、研究開発機能を含む産業・流通業務の集積を図ります。

■都市産業拠点

東那須産業団地の周辺地域を「都市産業拠点」として位置付け、周辺環境に配慮しながら、インターチェンジ近接性を生かした都市産業の集積を図ります。

■観光拠点

塩原や板室などの温泉地周辺を「観光拠点」として位置付け、自然環境や歴史・文化的な地域資源を生かして、広域的な観光客の増加を促進するための魅力向上を図ります。

(3) 連携軸

鉄道や道路を中心とした主要動線により、都市活動の効率性や市民生活の快適性を向上させるため市内外の拠点を結ぶ「連携軸」について、次のように構成します。

■広域連携軸

鉄道や高速道路、国道等を「広域連携軸」として位置付け、県内外の主要都市との広域的な移動や連携の促進を図ります。

■都市間連携軸

県道等の主要幹線道路を「都市間連携軸」として位置付け、広域拠点や地域拠点、生活拠点等の拠点間及び周辺地域との移動や連携の促進を図ります。

■都市内連携軸

県道・市道等の幹線道路を「都市内連携軸」として位置付け、市内の拠点地区間及び周辺地域との移動や連携の促進を図ります。

将来都市構造図



【凡例】

- | | | |
|-----------|---------|-----------------|
| ■土地利用のエリア | ■拠点 | ■連携軸 |
| 市街地エリア | 広域拠点 | 広域連携軸 (高速道路) |
| 農業・集落エリア | 地域拠点 | 広域連携軸 (国道) |
| 山間・観光エリア | 生活拠点 | 都市間連携軸 (主要幹線道路) |
| フロンティアエリア | 産業・流通拠点 | 都市内連携軸 (幹線道路等) |
| | 都市産業拠点 | 鉄道・駅 |
| | 観光拠点 | 公園 |
| | | 河川 |